

ソロー七十二候—1852年の場合

Thoreau's 72 Spells: An Attempt in 1852

近藤 正*
Tadashi Kondo

Abstract

This paper presents a brief process of creating a 72 spell calendar out of Henry D. Thoreau's *Journal*. The 72 Spells is a kind of Japanese calendar that shows the seasonal transitions by dividing one year into 72 segments. It serves as the basis of the *Saijiki* or the book of season-words which is commonly used among Japanese haiku and renku poets. Since 1969, when Octavio Paz organized the first international renku session in Paris, there has been a growing worldwide interest in the international renku. Consequently, there has been a growing need for an international version of the *Saijiki*. The 72 Spells can provide a common framework for classifying seasonal words on a global scale. In this paper I show the process of making a 72 spell calendar by analyzing the 1852 section in *Journal*. With the rapid development of databases and computer linguistics in the backdrop, I originally began a project of making a 72 spell calendar out of the database of the *Journal*. However, a lack of budget and limited time have forced me to present only a simplified version. Further information can be found in another paper, "Thoreau's Concept of Spring: A Comparative Study with the Japanese 24 Seasonal Periods and the 72 Spells," in *The Journal of the Faculty of Economics* (Seikei University), No. 45(1), to be published on July 20, 2014.

I. ソロー七十二候のコンセプト¹

今年はエズラ・パウンドが1913年に初めての英語の俳句を出版してから100年になりますが、この1世紀の間に俳句は世界中に広がり、海外の俳句人口は国内のそれをはるかに上回るまでになっていると想定されます。また1969年にオクタビオ・パスがパリで西洋人による初めての連句の座を張行してから、国際連句に対する関心が高まり、それに伴って国際連句に対応できる歳時記の必要性が認識されるようになっていきます。国際連句の場合、異文化間コミュニケーションを前提とした、国際的な歳時記研究の必要性が認識されています。

これまでに出版された3点の歳時記に触れて管見を述べておきます。まず、『英語歳時記』(土居・福原・山本1970)は英文学の季節の言葉を日本の歳時記風に分類した最初の例ですが、コンピュー

* 成蹊大学経済学部教授、Professor, Faculty of Economics, Seikei University
E-mail: kondo@econ.seikei.ac.jp

¹ 成蹊大学アジア太平洋研究センターのパイロットプロジェクトとして、ソロー研究所を訪問するための支援を頂いたことに感謝申し上げます。

ター言語学が発達する前の時代を代表する傑作と言えるでしょう。編集者の顔ぶれは当時のトップレベルを代表していて、多くの英文学作品を資料としており、日本の英文学界の面目躍如たるものを感じます。しかしながらコンピューター言語学の発達した現在から見れば、項目や例文の量の面で、手仕事の限界はいかんともしがたいものがあります。また、歳時記の例句となるほどにまだ海外の俳句が盛んではなかった時代でしたから、例文の中に俳句は一句も入っていません。それは一般的な歳時記のイメージと違う点です。次に、『世界大歳時記』（金子他1995）は俳句が世界的に広く作られるようになってから出た歳時記で、そのタイトルは期待を持たせるのですが、内容を見てみると、日本の歳時記を携帯して世界中を旅行した金持ちの日本人が書いた俳句を集めたような印象で、現地の季語の研究が十分ではないように思われます。実はこの歳時記は『ふるさと大歳時記』という国内の大きな歳時記プロジェクトの別巻として出されたもので、基本は日本の歳時記の枠を出ていないのです。世界歳時記たるものはその編集基盤に世界各地の民族の命の賑わいが感じられるものでなければならないでしょう。しかしながらこの歳時記は、日本の歳時記がどれほど世界で通用するかを、逆説的に証明してみせているとも解釈できます。そこに入れられた見出し季語の数は413ですが、それは世界共通の基本季語を探るときの一つの目安になると思われます。私は1992年8月に「北米連句紀行」を主催して、アメリカの6つの町（カーメル、サンフランシスコ、サンタフェ、ミルウォーキー、ニューヨーク、ホーボーケン）で合計100人と連句をしましたが、その時連句の座で使うために『山本健吉基本季語500選』（山本1986）を英訳して持って行きました。その時の印象では、季語には全米共通の部分と地域特有の部分とがあって、全米共通の部分はそれで十分カバーできると思いました。従って、まだ比較検証はしていませんが、『世界大歳時記』（金子他1995）は少なくともその世界共通の部分をあぶりだす意義があったと言えるのではないかと思います。そして最後に、*Haiku World: An International Poetry Almanac* (Higginson 1996) は国際連句を念頭に置いて初めて試みられた歳時記として大いに評価できると思います。四季の分類は二十四節気に従っており、北半球を逆転したものを南半球に当てはめています。中南米や南インドなどの熱帯の季節も配慮されています。収められたおよそ1000の例句は、50カ国の詩人600人が25の言語で書いたものです。680の季語が入っていますが、その中には132の雑（ぞう：無季）の主題も含まれています。大きな発展の可能性を秘めた歳時記ですが、しかし大変残念なことに、著者は志半ばで癌のために世を去りました。

そもそも歳時記とは季節の言葉を体系的に分類したもので、現在日本人が連句を巻く時は『十七季』（東他2007）という歳時記が最も多く使われています。これは四季の各季節を初・中・晩・三の4つに分類して、新年を加えたものです。三とはその季節全体にわたるという意味で、例えば春は、初春・中春・晩春・三春の4つに分類されます。

しかし日本でも最初から歳時記があったわけではありません。万葉集の時代に季の言葉の認識はありましたが、『古今集』の時代に季の分類概念が生まれ、14世紀ごろから連歌の式目が整備されたのに伴って季の言葉の分類が更に進み、現在のような歳時記の原型が初めてできたのは万葉集の時代から千年後の17世紀になってからでした。現在海外で俳句を書いている人が季語という時は、日本で言えば凡そ万葉集・古今集のころの季の言葉の認識に近いものと言って良いと思います。つまり、まだ季の言葉の認識が個人的であり、社会的な合意や体系的分類に至っていない段階にあると思われます。このことは一人で書かれた俳句を見る時は分かりませんが、一緒に連句をやってみると直ぐ分ります。ある言葉がどの季節を表すかという判断は、地域や個人によって開きがあるからです。日本でも季の言葉の基準は京都から始まり、貴族の文化と共に地方へ広がって行きました。鎌倉・江戸・明治と大きな時代の変革があるたびに、季語の

認識も進化してきました。芭蕉は「季の言葉の一つも発見すれば、俳諧士の手柄」と言っていますが、それは五街道が整備されて庶民が日本各地へ旅行しやすくなり始めたころの話で、現在はそれが世界中に広がったということになります。実際世界中を旅行して日本人が書いた俳句を集めて『世界大歳時記』というものが出来ていることは上に述べたとおりです。しかし本当の世界歳時記は原則として世界各地の地元の季語に基くべきであって、まだそこに至る道は遠いと言わざるを得ません。

歳時記の暦学的ベースとなっているものは、二十四節気と七十二候です（添付の表1・2を参照）。二十四節気は「立」によって1年を4つに分割し、次に「分」「至」によって8つに分割し、さらにそれぞれを3つに分割したものです。即ち、立春・立夏・立秋・立冬によって四季が成立し、それぞれを2分する春分・夏至・秋分・冬至を置きます。これらの8つの時点は地球の公転上の位置によって決まりますから、歳時記は天文学的時空間の認識を基盤にしていると言えます。こうして8つに分割したものを、さらに3つずつに分割して合計24の「節」を作るものは、地表の気象学的及び生物学的現象です。即ち、雨水・清明・穀雨・小満・小暑・大暑・処暑・白露・寒露・霜降・小雪・大雪・小寒・大寒などの気象学的現象と、啓蟄・芒種などの生物学的現象です。これによって二十四節気を構成している要素が、天文学的・気象学的・生物学的の3つの層に分類されることが分かります。これは太陽から発するエネルギーが地表の生命を育む、エコロジックエネルギーの流れを表しています。気象学的要素は地表の水と熱の変化に対応しており、水の様々な変化が生命活動と連動していることを表現しています。これらは暦の言葉としてよく聞きはしますが、抽象的で具体的なイメージに欠ける傾向があります。それに対して七十二候は、日常生活で経験する身の回りの季節現象、特にその風土になじみの深い動植物の生態によって構成されていますので、例えば、うぐいす鳴く・桃初めて開く・つばめ来る・虹始めて見る、などのように豊かなイメージに満ちています。従って、七十二候は世界歳時記の基盤となる共通の枠組みとして位置付けるのに相応しいと思われる。

七十二候はもともと黄河の中流域で作られたものと言われていています。一朝一夕に出来たものではなく、長年にわたる複数の人の確たる観察経験によって出来上がったものと推察されます。現代にそれに類する観察データを集めることは可能ではあっても簡単ではないと思われる。そこで私が注目したのがヘンリー・D・ソローの日記でした。ソローは1837年から1861年まで24年にわたってほとんど毎日のようにコンコルドの季節現象の観察を記録した日記（*The Journal of Henry David Thoreau* (1962)、以下『ジャーナル』と略す）を残しています。一地域の長期にわたる季節現象の観察記録として他に類を見ない貴重なデータです。驚いたことに彼は、後述するように、徹底した観察眼によって七十二候と同じような認識に近づいていたと思われるふしさえあります。

ソローの『ジャーナル』は、彼がニューイングランドを代表する詩人であること、彼がハーバード大学で学んだ生物学の観察技術は定評があること、その詩的表現が魅力的であることなどの特徴を備えており、世界歳時記という文学的目的を前提とした七十二候を作製するためのデータとして必要な条件を十分満たしていると思われる。

因みに、他のデータベースと比較すると『ジャーナル』の利点がよく分かります。例えば、カナダのウォータールー大学のOED (Oxford English Dictionary) データベースも同じような技術で歳時記を作成するソースとなり得ると思われる。しかしOEDの中には著者・地域・年代などが雑然と入っており、そこから信頼できる季節の言葉を体系的に抽出するには、問題が多すぎるくらいがあります。また、合衆国のアーカンソー大学のシソーラス (Roget's Thesaurus) データベースは、著者・地域・年代などの情報が全くない語彙が、いわば裸のまま存在してい

るだけなので、歳時記作成のソースとしては不向きであると判断せざるを得ません。更に、オクスフォード大学のオクスフォード・アーカイブズにはすべての英文学の作品が入っていますが、英文学史の中に特に季節現象の観察記録を残した作家が、ソロー以外にいたとは思われません。これらのデータベースと比較すれば『ジャーナル』データベースの優れた特徴が際立っていることが分かります。自分の町をほとんど出なかったというイマヌエル・カントの様な哲学者的生活態度と、生物の分類体系を開発したリンネのような確実な生物学者的観察眼と、シェイクスピアのような卓越した文学的表現力を一人で持ち合わせていたのがソローだったのです。しかも24年もの長期にわたって彼はその貴重な観察記録を残したのです。彼が観察を続けた森は「ウォールデンの森」として今も大切に保存されています。

II. 当プロジェクトのこれまでの経緯

1988年4月から2000年3月までの間、ハーバード大学に滞在した時、私はマサチューセッツ州のコンコードをたびたび訪れ、ウォールデン湖のほとりの店でソローの日記を購入しました。『ジャーナル』と『ウォールデン—森の生活』を読んでいると、彼が春は何時から始まると思っていたのが気になり、「Thoreau's Concept of Spring」(1998)という小論を纏めました。春に関するソローの観察記録と日本の二十四節気と七十二候を比較したものでした。それをアーカンソー州のホット・スプリングズ芸術祭で発表したところ、参加者の中にいたテキサス出身のスーザン・デルフィーヌ・ディレイニ (Susan Delphine Delaney) が、1年ほど経ってから「テキサス七十二候」というものを私の元に送ってくれました。彼女は精神科の医師で、毎日決まったコースを散歩するところはイマヌエル・カントのような生活を連想させます。私はそれによって個人の生活の中からも七十二候を作るのが可能であることを確認しました。こういうものは一人でも数人でも、確かな観察にもとづくならば、必要条件を満たすと言えるでしょう。私は日本の七十二候と「テキサス七十二候」を、スウェーデンの俳句大会で紹介しました。すると今度はフィンランド人のシルック・スカイ・ヒルトゥネン (Sirku M. Sky Hiltunen) が「フィンランド七十二候」を作って送ってくれました。(詳しくは、近藤 2008: 31-35、を参照。)

一方、言語学の分野では70年代からコンピューター言語学が発達して、大容量のデータベースの開発が進み、80年代にはそれを辞書の作製に応用する研究が行われていました。COBUILD (Collins Birmingham University International Linguistic Database) という辞書はその研究の最初の産物でした。その辞書の作製に使われた技術がKWIC (Key Word In Context) という検索システムで、それによってデータベースの中の全ての単語をその前後の文脈と共に抜き出すことが簡単にできるのです。私はこの技術を歳時記研究に応用しようと考えました。ウォールデン湖の近くにある国立ソロー研究所ではソロー・データベースのプロジェクトが進行中で、私はその責任者、ブラッドレー・ディーン (Bradley P. Dean) を知っていました。当時すでに『ジャーナル』は入力済みで、彼に相談したところ、ウォールデン歳時記(『ジャーナル』をベースにした歳時記)を作るには、5000万円の予算と2年の時間が必要だという見積もりを出しました。私が帰国して予算と年月の壁の手前で足踏みしているうちに歳月が経ち、2009年夏に再び同研究所を訪ねた時は、責任者のブラッドレーは死去していて、データベースはプリンストン大学出版局の管理下に移されていました。新しい管理責任者は、非常に面白いプロジェクトだが、手伝えるのは難しいという返事でした。

III. 本論文の目標

以上のような事情で、私はデータベースとKWICを使う研究を断念しましたが、基本的理念だけは纏めておく必要があると思い、手作業による方法を模索しました。『ジャーナル』の全体は無理としても、せめてその一部だけにでも斧石を入れて「ソロー七十二候」の雛形的イメージを取り出したいと思いました。しかしそれもまた手仕事だけに量的にも質的にも簡単なことではないことが想像出来ます。

本論では『ジャーナル』の1年分を取り出して、ソロー七十二候の雛形的イメージを作製することを目標とすることにしました。その1年分とは、理由は後で説明するように、1852年の立春から1853年の大寒までとします。そこからどのような方法で季節の言葉を抽出するかが重要なポイントで、コンピューターを使わず作業を一人で行うという絶対的に主観的な方法を是正する手立てはないか考えました。答えの手掛かりは、ソローが自分の日記をどのように利用していたかという点にありました。例えば、有名な『ウォールデン—森の生活』を書いた時、ソローは自分の日記を利用しましたが、利用の便宜を図るために彼は日記帳の余白にキーワードを記入していました。それはソロー自身が作った索引であり、その索引を利用すれば、ソロー自身の認識にきわめて近い七十二候を作製することが可能ではないかと思われれます。従って、本論ではその索引によってソロー七十二候の雛形的イメージを作製する過程を記述するとともに、その応用の可能性について論じることとします。

本論に入る前にソロー七十二候の雛形を作製する工程を簡単に説明しますと、まず、1852年立春から53年大寒までの七十二候の枠組みを準備します。次にその枠組みに従ってソローの索引リストを作成します。最後に、その索引リストの項目を、各候ごとに1つに絞り込む作業を経て、雛型が完成します。

IV. 1852年をモデルケースとする理由

拙論、「Thoreau's Concept of Spring」(1998)で初めて発見したことでしたが、ソローは彼の徹底した観察力とその記録によって、1年が環のように循環する季節現象の連続であるという認識に到達したと思われるふしがあります。ソローが『ジャーナル』を書き始めてから15年経った、1852年4月18日の記録にそれはあります。この日はいつもより書くことが多く、7ページもあるのですが、その最後のページに次の記述があります。

For the first time I perceive this spring that the year is a circle. I see distinctly the spring arc thus far. It is drawn with a firm line. Every incident is a parable of the Great Teacher. The cranberries washed up in the meadows and into the road on the causeways now yield a pleasant acid.

Why should just these sights and sounds accompany our life? Why should I hear the chattering of blackbirds, why smell the skunk each year? I would fain explore the mysterious relation between myself and these things. I would at least know what these things unavoidably are, make a chart of our life, know how its shores trend, that butterflies reappear and when, know why just this circle of creatures completes the world. Can I not by expectation affect the revolutions of nature, make a day to bring forth something new?

As Cowley loved a garden, so I a forest.

Observe all kinds of coincidences, as what kinds of birds come with what flowers.

ここには七十二候に共通する幾つかの基本概念が述べられています。

- a. 1年が季節現象の循環で表されること
- b. 季節現象は生活と密接な関係があること
- c. 季節現象には大自然の意味があること
- d. (七十二候のような) チャートがあれば、自然のサイクルの先が読めること
- e. (チャートを作るためには) 同時に発生する現象を全て観察する必要があること

ソローが東洋の七十二候を知っていたという確証はありませんが、ここには明らかにそれに共通する認識に達していたと断定できる記述があるのです。もともと七十二候は農業を助ける目的で作られたと言われていますが、実際は為政者が生活全般を視野において作製したもので、当時の経済の中心だった農業にウェイトがあるのも肯けます。ソローは地元の農林業に携わる男たちから常に情報を収集してはいましたが、彼自身はエコロジー的なマインドを持って自然観察に当たっていました。彼の自然観察はある特定の職業的意識に限定されるものではなく、極めて客観的でした。ソローが七十二候と同じような概念の認識に到達した1852年を記念して、その年の七十二候を作製することに決めた次第です。

V. 七十二候の枠組み

先ず七十二候の枠組み（スケルトン）を準備します。1852年の立春から1853年の大寒までを、当年の七十二候の日付に従って72に分けます。すると次のようなスケルトンが出来ます。

七十二候のスケルトン（1852年立春～1853年大寒）

| | | |
|--------|----------------------|------|
| 立春・初候 | 02月04 05 06 07 08 | |
| 2候 | 09 10 11 12 13 | |
| 3候 | 14 15 16 17 18 | |
| 雨水・4候 | 19 20 21 22 23 | |
| 5候 | 24 25 26 27 28 | |
| 6候 | 29 03月01 02 03 04 | |
| 啓蟄・7候 | 05 06 07 08 09 | |
| 8候 | 10 11 12 13 14 | |
| 9候 | 15 16 17 18 19 | |
| 春分・10候 | 20 21 22 23 24 | |
| 11候 | 25 26 27 28 29 | |
| 12候 | 30 31 04月01 02 03 04 | (6日) |
| 清明・13候 | 05 06 07 08 09 | |
| 14候 | 10 11 12 13 14 | |
| 15候 | 15 16 17 18 19 | |

| | | |
|--------|----------------------|------|
| 穀雨・16候 | 20 21 22 23 24 | |
| 17候 | 25 26 27 28 29 | |
| 18候 | 30 05月01 02 03 04 | |
| 立夏・19候 | 05 06 07 08 09 | |
| 20候 | 10 11 12 13 14 15 | (6日) |
| 21候 | 16 17 18 19 20 | |
| 小滿・22候 | 21 22 23 24 25 | |
| 23候 | 26 27 28 29 30 | |
| 24候 | 31 06月01 02 03 04 | |
| 芒種・25候 | 05 06 07 08 09 10 | (6日) |
| 26候 | 11 12 13 14 15 | |
| 27候 | 16 17 18 19 20 | |
| 夏至・28候 | 21 22 23 24 25 | |
| 29候 | 26 27 28 29 30 07月01 | (6日) |
| 30候 | 02 03 04 05 06 | |
| 小暑・31候 | 07 08 09 10 11 | |
| 32候 | 12 13 14 15 16 | |
| 33候 | 17 18 19 20 21 22 | (6日) |
| 大暑・34候 | 23 24 25 26 27 | |
| 35候 | 28 29 30 31 08月01 | |
| 36候 | 02 03 04 05 06 | |
| 立秋・37候 | 07 08 09 10 11 12 | (6日) |
| 38候 | 13 14 15 16 17 | |
| 39候 | 18 19 20 21 22 | |
| 処暑・40候 | 23 24 25 26 27 | |
| 41候 | 28 29 30 31 09月01 | |
| 42候 | 02 03 04 05 06 | |
| 白露・43候 | 07 08 09 10 11 12 | (6日) |
| 44候 | 13 14 15 16 17 | |
| 45候 | 18 19 20 21 22 | |
| 秋分・46候 | 23 24 25 26 27 | |
| 47候 | 28 29 30 10月01 02 | |
| 48候 | 03 04 05 06 07 | |
| 寒露・49候 | 08 09 10 11 12 | |
| 50候 | 13 14 15 16 17 | |
| 51候 | 18 19 20 21 22 | |
| 霜降・52候 | 23 24 25 26 27 | |
| 53候 | 28 29 30 31 11月01 | |
| 54候 | 02 03 04 05 06 | |
| 立冬・55候 | 07 08 09 10 11 | |
| 56候 | 12 13 14 15 16 | |
| 57候 | 17 18 19 20 21 | |

| | | |
|--------|----------------|---------------------|
| 小雪・58候 | 22 23 24 25 26 | |
| 59候 | 27 28 29 30 | 12月01 |
| 60候 | 02 03 04 05 06 | |
| 大雪・61候 | 07 08 09 10 11 | |
| 62候 | 12 13 14 15 16 | |
| 63候 | 17 18 19 20 21 | |
| 冬至・64候 | 22 23 24 25 | (4日) |
| 65候 | 26 27 28 29 30 | |
| 66候 | 31 | 1853年01月01 02 03 04 |
| 小寒・67候 | 05 06 07 08 09 | |
| 68候 | 10 11 12 13 14 | |
| 69候 | 15 16 17 18 19 | |
| 大寒・70候 | 20 21 22 23 24 | |
| 71候 | 25 26 27 28 29 | |
| 72候 | 30 31 | 02月01 02 03 |

二十四節気の夫々の節が3つに分割されて七十二候となり、1から72までの通し番号が付けられています。1候の平均は5日ですが、厳密には、4日が1回(64候)、5日が64回、6日が7回(12候、20候、25候、29候、33候、37候、43候)となっています。天文学的には公転上の角速度ですから、北半球的に言うならば、夏が遅く、冬が早くなる傾向があります。

VI. ソローの索引リストを作る

ソローは『ウォールデン』などのエッセーを書くときに自分の『ジャーナル』を資料として利用していました。そして便宜を図るために各ページの余白に自作の索引が記入されています。『ジャーナル』の1852年立春～53年大寒の範囲から、索引のリストを作ります。『ジャーナル』の各ページの索引項目を全て書き出し、日付ごとにスケルトンに写し取る作業の一端を紹介いたします。リストの長さは13ページになりますので、その内の最初の1ページ分だけを次にご覧に入れます。

立春 初候

| | |
|-------|--|
| 02月04 | A GLORIOUS NIGHT |
| 05 | THE NATIONAL FLAG |
| 06 | BOOKS ON FLOWERS |
| 07 | TWO HISTORIANS; THE FRENCH IN AMERICA |
| 08 | THE IRISH; "first rain"; "first crust" |

2候

| | |
|----|--|
| 09 | MIRAGE; "This is our month of the crusted snow." |
| 10 | MY FAILURES AND OFFENSES |
| 11 | SAVAGES |
| 12 | |

- 3 候
- 13 BEE-HUNTING; BUBBLES ON A BROOK; “the river swell”
- 14 CIVILIZATION; EPOCHS OF THE WINTER
- 15 NORSE ANCESTRY
- 16 SNOW-DUST
- 17 A BOTANOPHILIST
- 18 FACTS AND POETRY; “partridges”; “green mosses in melting snow”
- 雨水 4 候
- 19 GREEN ICE; “the lengthening of the days”
- 20 NOTES FROM NORSE LEGENDS; RABBITS AND MOLES
- 21 “As fat as a hen in the forehead.”
- 22 ENTERTAINING VIEWS; “a mild, misty day”
- 23 no records
- 5 候
- 24 “spring by the quality of the air”; “poplar’s swollen buds”
- 25 no records
- 26 WAR AND CIVILIZATION;
- 27 “near the end of winter”; “rivers come out of their icy prison”
- 28 THE VALUE OF THE STORM
- 6 候
- 29 SNOW-CRUST
- 03月 01 A REPORT ON FARMS
- 02
- 03 THE LARCH
- 04 REASON IN ARGUMENT; A PICTURE OF WINTER

このリストは原則としてソロー自身が付けた索引だけで構成されるはずののですが、部分的に季節の言葉が無い所がありますので、その場合は私の判断で『ジャーナル』の本文中の言葉を抜き出しました。ソロー自身の索引は大文字で表記し、私の判断で日記の内容から抜き出した言葉は引用符で示してあります。このようにしてできたリストに基いて、次の選定作業に進みます。

VII. キーワードの選定

『ジャーナル』の索引リストに基いて、各候ごとに1項目に絞り込む作業です。この段階で注意すべきことは、季節の言葉の項目の比率をどうするかの問題です。日本の現代七十二候の場合、項目の構成比は次のようになっています。即ち、草木・作物 (27)、地理・気象などの自然現象 (22)、鳥 (10)、虫 (9)、けもの (2)、魚 (2)、両生類 (1)、生活 (1) となっています。また、大衍暦・宣明暦 (中国) では、鳥 (22)、雷・風などの自然現象 (20)、草木・作物 (13)、虫 (9)、けもの (6)、魚 (1) となっています。大衍暦・宣明暦では鳥が日本の現代七十二候の2倍以上の比

率を占めていますが、これは鳥が黄河中流域の文化にとってそれだけ重要な季節的意味を持っていたからでしょう。ここでソローの索引を項目ごとに分類して注意深く分析すれば、彼の頭の中の地図が見えてくるはずですが。しかし今はその分析を省いて、私の主観的な印象で決めることを許していただきたいと思います。さらに、1年分を全て組上に載せる時間的余裕が無いので、半年分に限定させていただきます。

仮にデータベースを使った研究を想定すれば、言葉の使用頻度 (frequency) や連語関係 (collocation) のチェック、更にコンテキストにおける意味の確認などの作業がこの工程に含まれます。

VIII. ソロー七十二候の雛型

上のV～VIIの工程からソロー七十二候の雛型が作成されます。ここではその前半（初候から36候まで）だけを紹介します。

ソロー七十二候：1852年初候～36候

| | | | |
|----|-----|-----------|-------------------------------|
| 立春 | 初候 | 2月4～8日 | first rain |
| | 2候 | 2月9～13日 | bee-hunting |
| | 3候 | 2月14～18日 | melting snow |
| 雨水 | 4候 | 2月19～23日 | the lengthening of the days |
| | 5候 | 2月24～28日 | poplar's swollen buds |
| | 6候 | 2月29～3月4日 | sap is flowing |
| 啓蟄 | 7候 | 3月5～9日 | moonlight on snow crust |
| | 8候 | 3月10～14日 | bluebirds |
| | 9候 | 3月15～19日 | lichens full of fruit |
| 春分 | 10候 | 3月20～24日 | snowbirds go northward |
| | 11候 | 3月25～29日 | yellow lily leaves pushing up |
| | 12候 | 3月30～4月4日 | flooded meadows |
| 清明 | 13候 | 4月5～9日 | catkins lengthened and loose |
| | 14候 | 4月10～14日 | first painted tortoise |
| | 15候 | 4月15～19日 | converse with a woodchuck |
| 穀雨 | 16候 | 4月20～24日 | strain of the red-wing |
| | 17候 | 4月25～29日 | sprouting acorns |
| | 18候 | 4月30～5月4日 | dream frog |
| 立夏 | 19候 | 5月5～9日 | the spearers |
| | 20候 | 5月10～15日 | barn swallows |
| | 21候 | 5月16～20日 | the bellwort |
| 小満 | 22候 | 5月21～25日 | apple blossoms |
| | 23候 | 5月26～30日 | a day of shadows |
| | 24候 | 5月31～6月4日 | sassafras in bloom |
| 芒種 | 25候 | 6月5～10日 | the lupine |
| | 26候 | 6月11～15日 | first locust |

| | | | |
|----|-----|-----------|----------------------------------|
| | 27候 | 6月16～20日 | hornet's nest |
| 夏至 | 28候 | 6月21～25日 | fireflies and lightening |
| | 29候 | 6月26～7月1日 | breams' nests |
| | 30候 | 7月2～6日 | blueberry-pickers |
| 小暑 | 31候 | 7月7～11日 | an old pout with her young |
| | 32候 | 7月12～16日 | fleets of butterflies |
| | 33候 | 7月17～22日 | Huckleberrying and blackberrying |
| 大暑 | 34候 | 7月23～27日 | the haying season |
| | 35候 | 7月28～8月1日 | alternate-leaved cornel |
| | 36候 | 8月2～6日 | flowers along a brook |

END of the first half of Thoreau's 72 Spells

これがソロー自身が作った索引を手掛かりにして作製した七十二候の前半です。ソローが見たり聞いたりした地球の歌の節々を切り絵のように貼り合せたコラージュのイメージです。

IX. 可能性と今後の課題

七十二候は、二十四節気と共に、季語の原点であり、歳時記を支える基盤でもあります。ソロー七十二候の雛形を作製する過程を通して、『ジャーナル』から歳時記を作製する可能性を具体的に示すことが出来たと信じます。

ソロー自身が作った索引項目を利用したために、ソローの意識の世界に近い七十二候をイメージ出来ると思われる半面、私の選択という主観が入ることを除外できなかったことや、氷山の底辺にある『ジャーナル』の内容そのものを十分汲み取れなかったことは反省されなければなりません。実はそこにこそソロー自身も気づかなかった偶然性が隠されていると思われます。内容本体に切り込むにはデータベースの技術を要することは、当プロジェクトの当初から想定されていたことでした。

本論がデータベースを利用した歳時記作製の研究の可能性を示したことは明かだと思えます。現在は文字文化遺産のテキスト・データベース化が世界的に広がっているので、各地域のデータベースを応用した歳時記作製が可能になっていると思われます。

最後に、国際連句のための歳時記は地球上の季節の多様性を反映するものであり、先ず科学的なケッペンの気候区分のような区分をベースとしながらも、更に人間と季節の関り方が反映されることを原則とすべきです。また、国際連句は異文化間コミュニケーションの媒体であり、そのための世界歳時記は、各地域の歳時記を柔軟に組み合わせることのできるシステムであることが必要条件であり、例えば、ルービック・キューブのような柔軟な取り合わせが可能なシステムが望まれます。それもまたコンピューターの技術によって可能になるのではないかと期待されます。

参考文献

<日本語文献>

- 金子兜太他編 1995年 『世界大歳時記』、ふるさと大歳時記別巻、東京：角川書店。
 近藤正 2008年 「季語に秘められた地球温暖化対策の叡智」、『アジア太平洋研究』 No. 33、
 21-38頁。
 札幌市教育委員会編 1984年 『札幌歳時記』、札幌：北海道新聞社。
 土居光知・福原麟太郎・山本健吉監修 1970年 『英語歳時記』、東京：研究社。
 東明雅他編 2007年 『十七季』、東京：三省堂。
 山本健吉 1986年 『山本健吉基本季語500選』、東京：講談社。

<外国語文献>

- Higginson, William J. 1996. *Haiku World: An International Poetry Almanac*, Tokyo: Kodansha International.
 Kondo, Tadashi 1998. "Thoreau's Concept of Spring," originally presented at the Art Festival of Hot Springs, Arkansas, on November 5, 1998; revised and will be published in 2014 with a new title, "Thoreau's Concept of Spring: A Comparative Study with the Japanese 24 Seasonal Periods and 72 Spells," in *The Journal of the Faculty of Economics* (Seikei University), No.45 (1).
 Thoreau, Henry D. 1989. *Walden*, edited by J. Lyndon Shanley, Princeton: Princeton University Press.
 Torrey, Bradford and Francis H. Allen (eds.) 1962. *The Journal of Henry D. Thoreau*, New York: Dover Publications.

表1：二十四節気 [24SP (24 Seasonal Segments) in Japan]

| 太陽黄経 Celestial Longitude | 二十四節気 Names of 24 Seasons | 日付 Date* | 古典的季節 Classic Seasons** | 現代的季節 Modern Seasons** | 気温 (東京) Temp (Tokyo) Av. Lo-Hi |
|--------------------------------|------------------------------|-------------|-------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|
| 315 | 立春 Coming of Spring | 02/04 | ----- | Winter | 4 0-09 |
| 330 | 雨水 Rain Water | 02/19 | | | 1-10 |
| 345 | 啓蟄 Out of Hibernation | 03/05 | | | 7 2-12 |
| 0 | 春分 Spring Equinox | 03/20 | Spring | ----- | 4-14 |
| 15 | 清明 Clear & Bright | 04/04 | | | 13 8-17 |
| 30 | 穀雨 Grain Rain | 04/20 | | | 10-19 |
| 45 | 立夏 Coming of Summer | 05/05 | ----- | Spring | 17 13-22 |
| 60 | 小満 Increasing Heat | 05/21 | | | 14-23 |
| 75 | 芒種 Grain Planting | 06/05 | | | 21 17-24 |
| 90 | 夏至 Summer Solstice | 06/21 | Summer | ----- | 19-26 |
| 105 | 小暑 Small Heat | 07/07 | | | 25 21-28 |

| | | | | | | |
|------------|----------------------------|--------------|-------|---------------|-----------|--------------|
| 120 | 大暑 Big Heat | 07/22 | | | | 24-31 |
| 135 | 立秋 Coming of Fall | 08/07 | ----- | Summer | 26 | 24-31 |
| 150 | 処暑 Out of Heat | 08/23 | | | | 23-30 |
| 165 | 白露 White Dew | 09/07 | | | 23 | 22-28 |
| 180 | 秋分 Autumn Equinox | 09/23 | | Fall | | 18-26 |
| 195 | 寒露 Cold Dew | 10/08 | | | 17 | 15-22 |
| 210 | 霜降 Frost Fall | 10/23 | | | | 12-20 |
| 225 | 立冬 Coming of Winter | 11/07 | ----- | Fall | 11 | 10-19 |
| 240 | 小雪 Small Snow | 11/22 | | | | 7-15 |
| 255 | 大雪 Big Snow | 12/07 | | | 6 | 3-13 |
| 270 | 冬至 Winter Solstice | 12/21 | | Winter | | 2-11 |
| 285 | 小寒 Small Cold | 01/05 | | | 3 | 0-09 |
| 300 | 大寒 Big Cold | 01/20 | | | | -1-09 |

(The dates are from 1996. The temperatures are of Tokyo; monthly average on the left, and on the right low and high during each of the 24 seasonal segments.)

* The segments begin from.

** The dotted lines indicate the beginning and the end of each of the four seasons.

表2：七十二候（寛政曆，1798）〔72 Spells in Japan, 1798〕

| 太陽黄経 Celestial Longitude | 月・日 Mo/Day | 二十四節気 24 Seasons | 七十二候 72 Spells |
|--------------------------------|---------------|---------------------|--------------------------------------|
| 315 | 2/04 | 立春 | 東風解凍 East wind melts ice |
| 320 | 2/09 | | 黄鶯睨腕 Warbler sings |
| 325 | 2/14 | | 魚上氷 Fish come up to ice |
| 330 | 2/19 | 雨水 | 土脈潤起 Earth vein moistens |
| 335 | 2/24 | | 霞始翳 First mist |
| 340 | 3/01 | | 草木萌動 Budding starts |
| 345 | 3/06 | 啓蟄 | 蟄虫啓戸 Bugs end hibernation |
| 350 | 3/11 | | 桃始笑 Peach blossoms |
| 355 | 3/16 | | 菜虫化蝶 Caterpillars become butterflies |
| 0 | 3/21 | 春分 | 雀始巢 Sparrow nests |
| 5 | 3/26 | | 桜始開 Cherry blossoms |
| 10 | 3/31 | | 雷乃発声 Thunder |
| 15 | 4/05 | 清明 | 玄鳥至 Swallows arrive |

| | | | |
|------------|-------------|-----------|---|
| 20 | 4/10 | | 鴻雁北 Geese head north |
| 25 | 4/15 | | 虹始見 Rainbow |
| 30 | 4/20 | 穀雨 | 葭始生 Reed horn shoots |
| 35 | 4/25 | | 霜止出苗 Last frost: seedlings out |
| 40 | 4/30 | | 牡丹華 Peonies |
| 45 | 5/06 | 立夏 | 鼃始鳴 First cry of toad |
| 50 | 5/11 | | 蚯蚓出 Worms come out |
| 55 | 5/16 | | 竹筍生 First bamboo shoots |
| 60 | 5/21 | 小滿 | 蚕起食桑 Silkworms eat mulberry leaves |
| 65 | 5/26 | | 紅花榮 Safflower blooms |
| 70 | 6/01 | | 麥秋至 Autumn of barley |
| 75 | 6/06 | 芒種 | 螳螂生 Praying mantis hatches |
| 80 | 6/11 | | 腐草為螢 Decayed grass turns into fireflies |
| 85 | 6/16 | | 梅子黃 Plums turn yellow |
| 90 | 6/21 | 夏至 | 乃東枯 Selfheal withers |
| 95 | 6/27 | | 菖蒲華 Iris flowers |
| 100 | 7/02 | | 半夏生 Hangesho (Saururus chinensis) grows |
| 105 | 7/08 | 小暑 | 溫風至 Hot wind |
| 110 | 7/13 | | 蓮始華 Lotus flowers |
| 115 | 7/18 | | 鷹乃學習 Hawks learn to fly |
| 120 | 7/24 | 大暑 | 桐始結花 Paulownia flowers |
| 125 | 7/29 | | 土潤溽暑 Earth wet and humid |
| 130 | 8/03 | | 大雨時行 Occasional heavy rains |
| 135 | 8/08 | 立秋 | 涼風至 Cool breeze |
| 140 | 8/13 | | 寒蟬鳴 Tsukutsukuboshi cicada cries (Meimuna opalifera) |
| 145 | 8/18 | | 蒙霧升降 Fog rises and falls |
| 150 | 8/24 | 處暑 | 綿柎開 Cotton flowers |
| 155 | 8/29 | | 天地始肅 Heaven and earth calm down |
| 160 | 9/03 | | 禾乃登 Rice grains ripen |
| 165 | 9/08 | 白露 | 草露白 Dewy white grass |
| 170 | 9/13 | | 鶻鴿鳴 Wagtails twitter |
| 175 | 9/18 | | 玄鳥去 Swallows leave |
| 180 | 9/23 | 秋分 | 雷乃収声 Thunder silent |
| 185 | 09/28 | | 蟄虫坏戸 Bugs get to hibernation |

| | | | |
|------------|--------------|-----------|--|
| 190 | 10/03 | | 水始涸 Streams dry |
| 195 | 10/08 | 寒露 | 鴻雁來 Geese arrive |
| 200 | 10/13 | | 菊花開 Chrysanthemums bloom |
| 205 | 10/18 | | 蟋蟀在戶 Crickets come to door |
| 210 | 10/23 | 霜降 | 霜始降 First frost |
| 215 | 10/28 | | 霎時施 Occasional drizzle |
| 220 | 11/02 | | 楓蔦黃 Maples and ivies red |
| 225 | 11/07 | 立冬 | 山茶始開 Camellia blooms |
| 230 | 11/12 | | 地始凍 First frozen ground |
| 235 | 11/17 | | 金盞香 Narcissus fragrant |
| 240 | 11/22 | 小雪 | 虹藏不見 Rainbows hide |
| 245 | 11/27 | | 朔風弘葉 North wind blows leaves |
| 250 | 12/02 | | 橘始黃 Wild orange in yellow |
| 255 | 12/07 | 大雪 | 閉塞成冬 Get to winter seclusion |
| 260 | 12/12 | | 熊蟄穴 Bears hibernate |
| 265 | 12/17 | | 鱈魚群 Salmon gather |
| 270 | 12/22 | 冬至 | 乃東生 Selfheal grows (utsubogusa) |
| 275 | 12/27 | | 麋角解 Deer antlers fall |
| 280 | 01/01 | | 雪下出麥 Wheat sprouts under snow |
| 285 | 01/06 | 小寒 | 芹乃榮 Parsley grows |
| 290 | 01/11 | | 水泉動 Waters and springs move |
| 295 | 01/16 | | 雉始雊 First call of the pheasant |
| 300 | 01/21 | 大寒 | 款冬華 Silver leaf flowers |
| 305 | 01/26 | | 水泮腹堅 Ponds with thick, hard ice |
| 310 | 01/31 | | 鷄始乳 Chickens brood |